長崎大学　子ども心の医療・教育センター

― 子どもの心の支援にかかわる高度人材育成プログラム2023 ―

（Ａコース）

【A-37】スクールカウンセラーによる支援　/ 伊藤 勢津子氏

☑ 学校でのスクールカウンセラーの役割

1. 児童、生徒へのカウンセリング（スキル・トレーニングも含む）
2. 保護者へのカウンセリング
3. 先生とのコンサルテーション
4. 授業中の児童の観察
5. 他機関との連携（通級なども含む）
6. 特別支援教育に関する校内会議参加・助言・研修会の講師
7. 不登校児への家庭訪問

◆どんな相談が多いのか？

〇小学校）保護者や教師からの依頼で子どもが来室することが多い

保護者）・子育てや子ども障害に関する悩み　　・家族に関する悩み

子ども）・学校が楽しくない　　・学習面、友人関係、友達関係の悩み

〇中学・高校生）子どもからの相談を教師が受け、相談に繋がることが多い

・学校に行きたくない　　・学習面、友人関係、家族関係の悩み

・ＳＮＳでのトラブル　　・性について　　・進路について

☑ 教師への支援

◆ コンサルテーション

・先生方と情報交換を密にし先生方の困り感を充分に聴く
・お互いにチームメイトとして意見を交換する
・スキル・トレーニングの方法や保護者対応や保護者支援について一緒に考える
※養護教諭や管理職の先生との情報交換も重要である

◆ 会議への参加

・特別支援教育、生徒指導、不登校に関する会議に参加し助言、提案する
※校内の様々な情報交換し、先生方と一緒にサポートを考える

◆ 研修会の開催

・子ども、先生方、保護者に向けた授業や研修の実施

☑ 保護者支援

◎保護者は子育てで悩むことが多く、親も子もマイナス評価を受けやすい

◎子ども障害を受容する受容段階を踏まえながら保護者と関わることが重要である

受容段階　①ショック気⇒②否認期⇒③混乱期⇒④努力期⇒⑤受容期

←　年度替わりや「節目」で行ったり来たり揺れる　→

◆保護者対応の心構え

①相互コンサルテーションの立場で。親は子育ての専門家という視点 →相互アドバイス

②ティームミーティングを通して →保護者をエンパワメントしていく

※「問題」から「ニーズへ」

「どうなっていったらよいか？」「どうなって欲しいか？」を聞くことが大切

△保護者も発達障がいの可能性も考慮に入れる

↳　・話し合いの後メモを渡す　　・連絡帳でのやりとりなど視覚的に残す

〇生活面でうまくいっていないことも多い

家族関係の問題も考慮にいれ、主たる養育者のサポートがどれだけあるかアセスメントする

→ 外部の機関につなぐことも考慮する